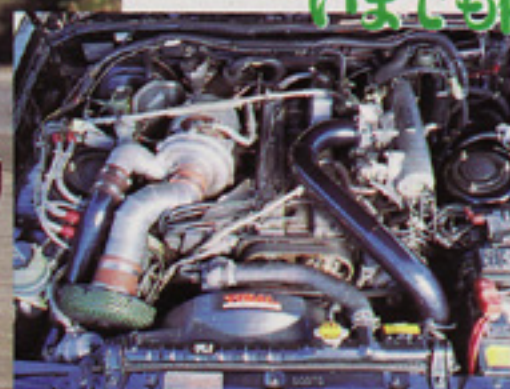


あの時と比べると、ホイールがボルフォGTPに変更されたのがスグにわかる。当時はGT-Rのノーマルを流用してたもんね。

トリアル スープラ

オーナー
ドライバー 泉晋一くん
トリアル村山さん

1G-GTチューンに
こだわった70スープラは
いまでも健在!



2.4リッター、コンピュータのエンジン制御がわりは多いけど、マフラーが「アベックスRS」に交換されていた。

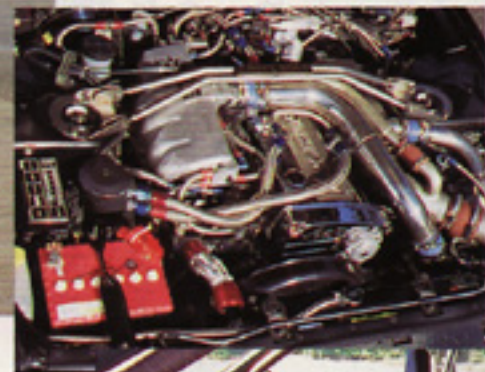


記念すべき第一回目のチューニングファミリーは、大阪のトリアル南大阪店で行われた。その時の「イチオシ」だったのがこのGA70スープラ。
親子そろってのチューニング好きと関西方面で有名な(?)泉くんは欠席だけど、トリアルのスタッフの村山さんが代理で出場することになった。
ゼロヨンでのタイムトリアルだけを考えたなら、やはり「JZスープラ」のほうが結果は出せるかもしれない。しかし「JZ」には負けたくないという泉クンのこだわりは強い。それに応えるべくトリアルが気合を入れてチューニングしたエンジンは、2.4リッターにRHC7タービン仕様。
ただ、やや大きめのタービンはピーキーな特性で、高回転でクラッチミートすると、255サイズのP-ZEROでも激しくスピンしてしまう。どうしても回転を抑えてのスタートになってしまうのだ。
「1、2速でタイムを稼げないからキツイですよ」と村山さんは嘆いてたけど、泉くん、このタイムなら納得できたしよ!?

アビロード スカイラインGTS-t

オーナー/ドライバー 増田英亮くん

打倒GT-Rを目標に造ったGTS-t
まだまだこれからも
ステップアップするぜ!



エンジンルーム内でも、タービンターボ、パイピングが変更されていた。こんどはタービンをTD08の25Gにするのが決まってるんだって。

あれから、予定していた足まわりをはじめ、チタンマフラー、ボンネット、サイドステップ、Fリップスポイラー、ブレーキローターにスパルコホイールと、まだまだずいぶんイジったもんだねー。

アビロードの「イチオシ」として登場し、去年のオートサロンにも出展されたGTS-tだ。もうやるどころがないといわれるマシンだけに、タイムには興味が集まっていた。
ところがそんな外野の予想とはウラハラに、いつもサーキット走行を楽しんでいる増田くんは、「ゼロヨンはあまりやったことがないから、スタートがチョット……」と不安そう。
「最後はブーストを1.5kg/cm²まで上げちゃいましたよ、こんなに限界まで高めたのははじめてですよ」
タイム短縮に相当熱くなってみたいで同行して来た。スタートの達人に教わりながら走ってるけど、どうしてもスタートがネックになってしまった。「少しずつコツがつかめてきましたけど、けっきょく今日はスタートの練習でおわっちゃいましたね。GTS-tのボディだから、太いタイヤが入らないのも問題ですよ。実はボディをワイド化する計画もあるんです。まだまだ、やりたいことはたくさんありますよ!」



OPT2読者ならロールバーが加わったのに気がつくでしょ。じゅうぶんスゴかったオーディオもでっかいスピーカーがさらに装着されていたよ。